



図書館だより

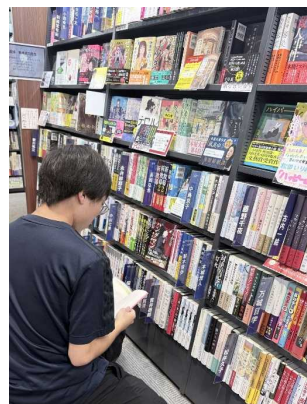
Shizuoka Institute of Science and Technology Library

TOPICS

1. 学生選書ツアーを実施しました ブログ記事掲載

9月14日(月)、学生の夏休み期間を利用して「学生選書ツアー」を実施しました。当日は、学生2名と職員1名が谷島屋浜松本店に集合し、店内を巡りながらそれぞれ興味のある分野や学生に読んでほしい本などを選びました。普段は手に取らないような新たな本との出会いの機会にもなっており、参加した学生は、楽しそうに本を手に取りながら、熱心に本を選ぶ様子が見られました。

今回の選書ツアーでは、27冊の本が選書されました。学生が作成したおすすめのカードとともに館内での展示を行っています。学生ならではの視点で選ばれた本は、ジャンルも幅広く、多彩なラインナップとなっています。ぜひ手に取ってご覧ください。



2. 夏のオープンライブラリーを実施しました

図書館では、地域貢献活動の一環として、夏休み期間中に中学生・高校生を対象とした「オープンライブラリー」を実施しました。8月6日から9月17日までの期間、地域の中学生・高校生に図書館を開放し、学習や読書、DVD視聴などに利用していただきました。期間中は、熱心に勉強に取り組む姿や、興味のあるDVDを楽しむ姿が見られ、それぞれが思い思いの時間を過ごしていました。利用者はまだ多くありませんでしたが、来館された皆さんに大学や図書館をより身近に感じていただく機会となりました。また、大学施設の活用を通じて、地域とのつながりを深めるきっかけにもなりました。今後も地域に開かれた図書館として、オープンライブラリーを継続的に実施していく予定です。

次回実施の際には、学習や読書、くつろぎの場として、ぜひお気軽にご利用ください。

3. より快適な図書館利用のために ～昼食スペース開放中～

図書館では、利用者サービス向上の一環として、視聴覚コーナーの一部を昼食スペースとして開放しています。この取り組みは7月から試行的に実施していましたが、利用状況も踏まえ、今後も継続して開放いたします。利用時間は12時から13時までです。昼休みの時間帯に、持参したお弁当や軽食などをお召し上がりいただけます。授業や学習の合間の休憩やリフレッシュの場としてご利用ください。屋外のリフレッシュコーナーについては、これまでどおり終日飲食可能エリアとしてご利用いただけます。



※イメージ

4. 「SIST 秋の読書キャンペーン」開催中！

～本を読んでドリンクチケットをもらおう！～秋の読書キャンペーンを開催しています。期間中に借りた本について「コメントカード」を記入し、提出してくれた学生には、学生ホールカフェのドリンクチケットをプレゼントします。さらに10月中旬からは「教職員の推し本展示」、読書週間には静岡県グリーンバンク主催「図書館でグリーンキャンペーン」も共催します。教職員の推薦コメントが添えられた「推し本」を手にとって、新たな一冊との出会ってみませんか。読書の秋、この機会にぜひ図書館をご活用ください。

<読書キャンペーン開催期間：9月25日～11月13日>

5. 本学教員著作のご紹介

○情報デザイン学科 本多明生 先生翻訳

『なぜ心理学は重要なのか』

リチャード・ワイズマン著、福村出版、2026.9

所在：展示架 140/W78

*読書キャンペーンや関連イベントの詳細は、学内の掲示や図書館ウェブサイトをご覧ください。

読書への羅針盤

特別編

木村 雅和 静岡理工科大学学長 に聞く

「好奇心を胸に、人と違うことを恐れず挑戦しよう」

今回は特別編として、木村雅和学長にお話を伺いました。

木村学長は電子工学が専門であり、大学では半導体の研究をされていたそうです。シリコンに代わる物質の研究や、大きな電圧や電流を扱う「シリコンパワーデバイス」の電力損失を少なくするための研究にも取り組まれていたそうです。こうしたパワーデバイスは、ハイブリッド車のプリウスなどに使われるインバーターにも応用されています。

学生時代に読んで印象に残っている本や、最近読んだ本についても伺いました。太宰治の『惜別』¹⁾ やリチャード・ファインマンの『ご冗談でしょう、ファインマンさん』²⁾、ローマン・クルツナリツクの『グッド・アンセスター』などを紹介していただきました。『惜別』は異なる文化や立場を超えた人と人との信頼や交流を描いた本です。『ご冗談でしょう、ファインマンさん』は、物理学者ファインマンの好奇心にあふれた姿が描かれている本で、「なぜだろう」と思ったことをそのままにせず、疑問を深く追究していく姿から、好奇心を持つことの大切さを感じたとのことでした。『グッド・アンセスター』は私たちが後世の「祖先」になる場合、将来の人たちに何を残すのかを考えることが大切だと感じさせる本だそうです。さらに、中谷宇吉郎の『雪は天からの手紙』³⁾ も紹介していただきました。雪の結晶をきっかけに、身近な疑問を深く研究していく内容だそうです。木村学

長は、これらの本から「人とのつながりを大切にすること」「好奇心を持つこと」「人と違うことを恐れず挑戦すること」、そして「未来の人たちに何を残すのかを考えることの大切さ」について話してくださいました。

本学の学生の印象について何うと、素直でかつ、挨拶をしてくれる学生が多いと感じているそうです。一方で、もっと挑戦する気持ちを持ってほしいとも話されていました。

最後に、趣味についても伺いました。木村学長は音楽がお好きで、特にジャズや、ブラジル音楽などのラテン系音楽をよく聴かれるそうで、中古店でアルバムを探すこともあるそうです。また、最近の AI が作った音楽の完成度の高さにも驚いたそうです。

今回のお話から、私たちも「なぜ？」という気持ちを大切に、さまざまなことに挑戦していきたいと思いました。木村学長が紹介して下さった本には、好奇心を持つことや、人と違うことを恐れず挑戦することなど、学生生活の中でも大切にしたい考え方が詰まっています。皆さんも、紹介して下さった本の中で、興味を持った本をぜひ手に取って読んでみてはいかがでしょうか？木村学長、お忙しい中、興味深い話をたくさん聞かせていただき、本当にありがとうございました。

【所在】1) 文庫/北 913.6/D49

2) 図書/西 420/F23 3) 文庫/北 914.6/N44

インタビュー・記事：コンピュータシステム学科4年 金澤大基 / 3年 松原聡紀

私の選んだ一冊

『謎の香りはパン屋から』土屋うさぎ著

この本は「このミステリーがすごい！」大賞を受賞した作品で、パン屋を舞台に、日常の中で起こるさまざまな謎を解き明かしていくミステリー小説です。5つの短編で構成されているため、話が読みやすく、普段あまり本を読まない人でも気軽に楽しめると思います。また、物語の中にはパンに関する雑学も登場するため、謎解きだけでなく、パンについての知識を知ることができるのも魅力の一つです。身近なパンが物語の謎とどのように関わってくるのかにも注目して読んでみてください。短編ごとに違った謎を楽しむことができ、ミステリーが好きな人はもちろん、パンが好きな人などにおすすめしたい一冊です。

(コンピュータシステム学科3年 松原聡紀)

『こんなにも優しい世界の終わりかた』市川拓司著

この作品は、主人公の孤独だった中学生時代と、段々と凍りつく空間が増えていく終わりの世界で彼女へ会いに行く旅が交錯します。印象的だったのは、世界の終わりが想像できなかった頃には、余裕がなく不寛容だった人々が、世界の終わりを前にして、駆け引きなどをする余裕を失い、素直に愛を表現し優しくなっていく姿です。残された時間の中で、本当に大切なものに気づいていく切なくも温かな世界観に引き込まれました。

(コンピュータシステム学科3年 澤田克希)

『高熱隧道』 吉村昭著 （新潮文庫）

執念が切り拓く道の果てに ー

今回、学生の皆さんにぜひ読んでほしい一冊として、吉村昭氏の記録文学『高熱隧道』を選定しました。ぜひ読み進めてみてください。

本書は、1936年から1940年にかけて行われた黒部川第三発電所（黒三）の建設工事を、実話に基づき描いた名作です。物語の核となるのは、書名にもなっている「高熱隧道」の掘削プロセスです。トンネルを掘り進むにつれ岩盤の温度は異常上昇し、最終的には摂氏166度という、生物の存在を拒絶する極限状態に達します。作業者に冷水を浴びせ続けて工事を強行しますが、あまりの熱に装填したダイナマイトが自然発火して暴発し、さらに冬場には「泡雪崩（ほうなだれ）」が宿舎を襲うなど、凄絶な犠牲が積み重なります。

こうした凄惨な記録を読み進める中で、私が皆さんに感じ取ってほしいのは、「自然と対峙する土木」の圧倒的な魅力です。土木とは、机上の計算だけで完結する仕事ではありません。生きた地球という、時に理不尽なまでの猛威を振るう巨大な存在に対し、人間が知恵と技術、そして不屈の意志を総動員して挑むダイナミックな対話です。166度の岩盤に水をかけながら掘り進む姿は、狂気と紙一重かもしれませんが、そこには「自然の力を解き放ち、社会の礎を築く」というエンジニアの

本能的な情熱が漲っています。

そして、その困難の先にある完成した際のやりがい、他の何物にも代えがたいものです。本書で描かれた「黒三」は、多くの犠牲を払いながらも1940年に竣工しました。人跡未踏の秘境に、人間の手によって巨大な構造物が完成し、そこから生み出された電力が人々の暮らしを灯す。その瞬間、土木技術者は「自らが歴史と地形を塗り替えた」という、神聖なまでの達成感を味わいます。自らの仕事が地図に刻まれ、数十年、数百年にわたって社会を支え続ける確信。皆さんの現在の生活があるのも、こういった諸先輩方のたゆまない努力のおかげで成立しているのです。これこそが土木という職能の最大の醍醐味と言えるでしょう。

皆さんは現在、図面やモデルを通じて都市を構想していますが、その計画の背景には、かつてこれほどの「熱量」があったことを知ってほしいのです。本書を通じて、専門知識を超えた「ものづくり」の根源的な厳しさと、それを乗り越えた先にある崇高な価値を、ぜひ自身の視座に加えてみてください。

【所在】文庫/北 913.6/Y91

新着図書紹介

学
咲良は上手に説明したい！
滝沢志郎著，PHP研究所

学
その言葉の本当の思惑を見抜く
言語学
尾谷昌則著，サンマーク出版

学
ムンクは何を叫んでいるのか？
井上響著，サンマーク出版

学
海の微生物の利用 未知の探索から未来産業へ
今田千秋著，成山堂書店

学
家電は物理学である 横川淳著，ベレ出版

学
科学でかなえる世界征服
ライアン・ノース著，吉田三知世訳，早川書房

学
大学生になったらキャリアデザイン
見館好隆著，九州大学出版会

学
世界へ飛び出た100人の日本人
聞き手おかけいじゅん，集英社インターナショナル／集英社

学
自分の頭で考える 世界をもっとおもしろくする方法
朝を待ったための知見編，講談社

学
Claude Code実践入門
Agentic Coding
Oikon, 前川蒼著，SBクリエイティブ

そのほかの
新着情報



学 学生選書ツアー
選書図書

らいぶらりあん

「金沢で出会った新しい図書館
『百万石ビリオバウムを訪ねて』」

図書館 岡部恵理

夏休みを利用して、久しぶりに金沢を訪れました。金沢城や兼六園、ひがし茶屋街など歴史と文化が息づくこの街で、今回ぜひ足を運びたいと思っていたのが石川県立図書館です。図書館関係者の間でも話題となっており、話題の図書館と聞くと実際に行ってみたくなるのは、図書館員あるあるかもしれません。

石川県立図書館は2022年のリニューアル開館以来、斬新な建築や多彩なサ―

出合いを楽しめるよう工夫されています。

また、館内には「百脚繚乱」と名付けられた個性豊かな椅子が配置されており、その数は100種類以上、約500席。利用者はお気に入りの椅子で読書や学習を楽しんでいます。椅子を眺めながら歩くだけでも十分楽しめます。さらに、体験型展示や交流スペース、イベント、おしゃれなカフェなども充実しており、長時間滞在したくなる工夫が随所に見られました。

館のコンセプトである「思いもよらない本との出会いや体験によって、自分の人生の1ページをめくることができる場所」が館全体で体现されており、「本と人、人と人

ビスで注目を集めており、来館者数は全国トップクラスを誇るそうです。建築設計は、浜松科学館も手がけた仙田満氏率いる環境デザイン研究所によるもので、愛称は「百万石ビリオバウム」。ビリオ（図書）とバウム（木）を組み合わせた名称です。

館内に入ると、視界いっぱいには円形劇場のような大空間が広がります。壁面を囲むように書架が何層にも連なり、高い天井からは自然光が館内に降り注いでいます。特徴的なのは、円形状に配置された書架に「子ども」「仕事」「暮らし」など12の身近なテーマごとに本が並べられていることです。書架を巡る中で、思いがけない本との

をつなぐ場所」という考え方が強く感じられました。

旅の途中だったため滞在は1時間ほどでしたが、新しい図書館の魅力を十分に感じることができました。AIやデジタル技術の進展により、必要な情報を手軽に入手できる時代となりましたが、図書館には思いがけない本と出会える魅力があります。自館においても、利用者が新たな本や人と出会い、「また来たい」と思える図書館づくりを大切にしていきたいと思っています。

金沢を訪れる機会がありましたら、ぜひ足を運んでみてください。新たな観光名所としておすすめです。



LIBRARY CALENDAR



開館時間： ■ 9：00～18：00 ■ 9：00～20：00 ■ 9：00～16：00 ■ 休館日

10 月							11 月							12 月							2027年 1 月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
・	・	・	・	1	2	3	1	2	3	4	5	6	7	・	・	1	2	3	4	5	・	・	・	・	1	2	
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	3	4	5	6	7	8	9
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	10	11	12	13	14	15	16
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	17	18	19	20	21	22	23
25	26	27	28	29	30	31	29	30	・	・	・	・	・	27	28	29	30	31	・	・	24	25	26	27	28	29	30
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	31	・	・	・	・	・	・

◆10月12日、11月3日、23日（祝）は授業日につき開館 9:00～18:00

◆10月24日（土）～25日（日）は大学祭、2027年1月23日（土）は試験期間中につき開館 9:00～16:00

◆【休館】大学祭準備 10月23日（金）

◆【休館】冬期休業 12月26日（水）～2027年1月3日（日）

※開館カレンダーは、状況により変更される場合があります。最新の情報は図書館ウェブサイトをご確認ください。

【編集後記】休暇で米国議会図書館とニューヨーク公共図書館を訪れ、知の殿堂の威容に圧倒され感激しました。NY 公共図書館の「公共 public」とは「一般公衆に開かれた」という意味で、独自企画や催しなど図書館の枠を超えた活動も有名。隣のブライアント・パークでは芝生の上でゆったり読書する人々の姿を羨ましく眺めました。同館の裏側を記録した映画もあります（→視聴覚コーナー）

静岡理工科大学図書館報 No.86 2026年 10月1日発行

編集・発行：静岡理工科大学附属図書館 〒437-8555 袋井市豊沢2200-2 *一部画像に生成AIを使用しています

E-mail: tosyokan@sist.ac.jp TEL: 0538-45-0231 FAX: 0538-45-0230 URL: <https://www.sist.ac.jp/lib/>